



自然と歴史あふれる吉備路にある緑の館

きびじつるの里は国民宿舎サンロード吉備路に隣接しています。
敷地の中に大小の池、飼育に適した湿地や緑地を有しており面積は約3ha、日本から居なくなりかけたタンチョウの保護と繁殖技術のかかりつ向上のための施設として平成15年7月に開園しました。
敷地内にある「学びの家」は、来園者の教育と環境保護思想の普及を目的としたタンチョウの飼育状況や施設で生まれた雛の生育日記などを資料や写真の展示、雛に飼育員が接する際に着用する親鳥のタンチョウを模したコスチュームが展示されています。

◆ 施設のおすすめ

当施設では、ゲージの中での飼育も行いながらタンチョウが生息している自然環境に近い野外飼育場があるため、生き生きとしたタンチョウの様子を見ることができます。
毎日11時と14時はタンチョウへの餌やりの時間になっており、柵のすぐ近くまでタンチョウが寄ってくるので、手の届きそうなほど近い場所でタンチョウを観察でき、申し込みは必要ですが飼育員の解説も聞くことができます。
夏休みには毎週土・日に観察会を開催しており、来園者がタンチョウのことや、自然環境について学習する機会になっています。

◆ 子どもたちへのメッセージ

タンチョウは絶滅しかけた生き物で国の特別天然記念物に指定されています。一度絶滅してしまうと、人間の力では再びこの世に生まれることはできません。
タンチョウだけでなく、世界中の生き物と環境を守ることで人間にも生きやすい環境を作り出すことにつながります。持続可能な環境について考えるきっかけになればと思っています。



学びの家外観



展示室



タンチョウ日記



雛の生育状況



タンチョウの卵



風切り羽



野外飼育場



自然に近い飼育環境